

川南町立通山小学校の学力向上への取組

1 学校の概要

本校は川南町の東側海岸近くに位置しており、主たる産業は、漁業、畜産、農業である。校区内には漁港があり、総合的な学習の時間で漁業に関連する産業について調べる活動に取り組むなど、児童の関心も高い。

本校は平成14年度、教育機器利用の研究指定を受け、コンピュータを多数導入し、LAN整備を行った。ITのインフラが整い、様々な教科・領域・総合的な学習の時間でコンピュータを活用しており、平成15年には研究公開を行い、高い評価を受けている。16年度は県よりホームページの学校賞を受賞している。

2 児童の実態

本校は児童数が287名、普通学級12クラス、特殊学級2クラスで構成されている。児童は温厚で、元気のよい挨拶ができ、学習や清掃などの活動へも進んで取り組んでいる。スポーツ少年団などのサークル活動も盛んで、野球、サッカー、剣道、テニス、空手などに所属している児童も多く、テニスにおいては2年連続全国大会へ出場している。しかし、その一方で複雑な家庭環境のため、基本的な生活習慣が身に付いていない児童もあり、解決に向けて地域・家庭との連携を図りながら進めているところである。

3 学力向上に向けた経営方針

本校の教育目標は、「自己を豊かに開拓し、確かな力と広い心でたくましく生きる児童の育成」である。この教育目標を具現化するためには、児童が自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成していく必要がある。そのため、本校においては、児童像を「たくましく生きる子ども」「進んで学ぶ子ども」「思いやりのある子ども」とし、知・徳・体の3つの側面から児童を育てていく指導を行っている。また、確かな学力を身に付けていくため、問題解決的な学習活動の展開、個に応じた指導の充実、適切な評価と支援の在り方に重点をおいて指導している。本年度は研究主題を「伝え合うための基礎を育てる国語科学習指導の在り方（理解力、表現力、思考力が相互に働く学習活動を目指して）」とし、国語科の学習指導や朝の表現活動、読書活動などを中心に、学力の向上に向けて取り組んでいるところである。

4 教育課程内の取組

(1) 国語科学習における説明文学習のあり方

国語科における学習では、「伝え合う力」の基礎・基本となる技能を育成するために以下のような手立てを取る。

(ア) 伝え合う力の基礎・基本を明確にし、発言、応答、質問などといった場面ごとに応じた基本的な話型を示し、どの児童でも発表できる手立てを工夫していく。

(イ) 伝え合う力を高めるために、説明文の学習において、読み取る力を高め、自分の考えをもたせるような手立てを工夫していく。

(2) 授業の実際

① 2年「どうぶつのひみつをしらべよう『ビーバーの大工事』」

ア 本時の目標

- 叙述に沿って、ビーバーが水にもぐって川をせき止める様子を正確に読み取ることができる。

イ 指導の流れ

学習内容及び学習活動	指導上の留意点及び評価の観点
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ビーバーにダム作りを教えてもらおう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習方法を確認する。 <p>2 学習方法に沿って一人調べをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ビーバーのダム作りをワークシートにまとめる。 <p>3 調べたことをもとに話し合う。</p> <p>4 ダム作りの感想をまとめ、発表し合う。</p> <p>5 話し合っ分かったことをもとにクイズを作り、出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ めあてを確認し、目的意識をもって音読させる。 ○ 前時までの学習方法を確認させ、本時の見通しをもたせる。 ○ 内容を読み取るために微音読や黙読をしながら、ダム作りが書かれている文にサイドラインを引かせまとめさせる。 ○ より分かりやすくするために、絵に描いた木や石、泥などを使って川をせき止める様子を黒板に再現しながらまとめさせる。 ○ 読み取ったことを確認しながら、学習クイズの作り方を練習する。

ウ 授業の考察

- どの児童もビーバーがダムを作る手順について、サイドラインを引きながら、ワークシートに整理していくことができていた。ヒントコーナーなどの手立てが準備されており、苦手意識をもつ児童への配慮も適切であった。
- 話し合う場面で、「木をくわえたまま」「さしこんで・・・」「小枝をつみあげて」「上からおもしろをする」という言葉については、動作化を取り入れたり、ダムを作る手順を黒板を使って再現したりすることで児童の理解を深めることができた。
- 後半の学習クイズの出題は、児童に本時学習した内容がきちんと読み取れているかどうか確認するうえでも大変効果があった。2年生にとっては出題が難しいので、本時のように、教師が補助をして、一緒に出題する方法が適切ではないかと思われる。



<ビーバーになってダムの作り方を再現する>

② 4年「ウミガメのはまを守る」

ア 本時の目標

- ウミガメの浜の保護に乗り出す経緯について重要語句に気を付けながら読み取ることができる。

イ 指導の流れ

学習内容及び学習活動	指導上の留意点及び評価の観点
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>御前崎町の人々がウミガメの保護に乗り出したのはなぜでしょう。</p> </div> <p>2 本文を読んで要旨をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文を読みながら大切な言葉や文章に線を引く。 ○ 形式段落ごとに、重要な語句や文章を抜き出してワークシートに書く。 ○ グループ内でお互いの考えについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海がめの保護に関する重要なところにサイドラインを引くことを確認する。 ○ 中心の文がわからない児童には重要な語句を箇条書きにさせる。

ウ 授業の考察

繰り返しの音読の後、「そこで」や「そのため」などのつなぎ言葉を手がかりに順序性に気付かせ、要点を整理していくことができた。サイドラインは、その部分が重要であるかないかをはっきりさせる上でも効果があり、ほとんどの児童がワークシートにまとめていく際にも、躊躇なく取り組むことができていた。また、理解に時間がかかる児童には、ヒントが書かれているワークシートが準備されており、それを手がかりにまとめていくことができていた。



<サイドラインを引きながらまとめる児童>

5 教育課程外の取組

(1) 読書活動について

本校では金曜日の朝の時間に読書の時間を設け、全校で朝の読書に取り組んでいる。また、図書館の選定がしやすいように、それぞれの学年で、「おすすめの50冊」を発達段階を考慮して選定し、掲示するなどして、児童の読書意欲の向上を図っている。

毎月1回、地域のボランティアの団体に来ていただき、昼休みに、児童向けの読み聞かせの活動を行っており、これには、毎月多数の児童が



<昼休み、図書室での読み聞かせ>

参加しており、読書への関心が高まっている。

(2) スキルアップタイムでの取組

金曜日の放課後の時間にスキルアップに取り組んでいる。これは、算数や国語を中心に、今までの学習したことの復習など学力向上に向けて取組として位置付けているが、自作の資料(算数)なども活用しており、理解に時間がかかる児童への個別指導の時間としても有効である。

(3) 朝自習での取組

月、水の朝自習を使って、ドリルや学習プリントなどを活用して学力の定着に向けての活動を行っている。

6 保護者・家庭・地域との連携

(1) 家庭学習の啓発

4月の参観日の懇談会で、家庭学習のあり方についての話し合いの場を設定し、家庭ではどのように学習を進めていくのか、その手順や方法について確認した。主に、その日に習ったこと、特に新出漢字の練習、計算ドリルを使った繰り返しの学習が大切であることを伝え、家庭学習の継続の大切さについて理解を求めた。

(2) 通信の発行

7月号 学習指導要領 平成17年7月15日

通山だより
平成17年度川前町立通山小学校

いよいよ1学期も終わります。子ども達の1学期の家庭学習の様子はどうだったでしょうか？ 次のことを反省してみましょう。

① 学習時間は、毎日しっかりと確保しましたか？
通山小学校 家庭学習のめやす
1、2年生 30分～1時間
3、4年生 1時間～1時間半
5、6年生 1時間半～2時間

② 内容は、充実したものでしたか？
ノートは、つめてしっかり使っていましたか。
同じ内容ばかりしていませんか。
ていねいに書いていましたか。
ドリルや教科書はしっかり活用していましたか。

<返信から>
・ 家庭での学習は、本当に大事だと思います。特に読書。算数を解くのに問題の意味が分からないと答えが書けないので、大事だと思いました。
・ 四年生の保護者です。漢字の学習を方眼ノートにしているようですが、書きにくいのと、早く終わらせたい気持ちから、字が雑になりがちです。漢字ノートを使ってはいけなくてしょうか？150字ノートだと方眼ノートの方が21字多いだけです。高学年になると、とめ・はねなどがあまいになりがちだと思います。防ぐ効果もあると思います。ぜひ練習いただけたらいいと思います。

夏休みも しっかり学習しましょう!!

学校での学習の取組や家庭での学習の進め方について学校通信(通山だより)を発行している。学習の方法を知らせるだけでなく、家庭学習がよくできている児童を紹介するなど、効果的な学習のあり方や、お薦めの本の紹介、学校での学力向上に向けた取組などを紹介し、家庭学習への啓発を行っている。

7 成果と課題

- 音読をする、大事な部分にサイドラインを引く、ワークシートにまとめるという一連の流れや、読み取る力が、児童に着実に身に付いてきていることが分かった。また、理解に時間がかかる児童についてはワークシートやヒントカードなどの手立ても有効で、正しい読み取りを行っていく上でも効果があることが分かった。
- 昨年度より、読書を好む児童が増えてきた。図書への貸し借りの冊数が増加してきている。また、絵本の読み聞かせは自由参加だが、回数を重ねるごとに人数が増えてきた。読書への関心が高まってきた成果であると考えられる。
- 家庭での学習時間、家庭学習の方法や時間などについては、取組の状況に個人差が大きい。これからは家庭への協力の呼びかけや、学校での指導を続けていく必要がある。